

高等学校グランドデザイン会議第4回上北・三八地区部会概要

日時：平成19年6月8日（金）

13:00～15:00

場所：三戸郡町村会館12号室

<出席者>

加福部会長 石川副部会長 石橋委員 小高委員 武輪委員 古舘委員 益川委員

開会

司会

ただ今から「高等学校グランドデザイン会議第4回上北・三八地区部会」を開会いたします。まず、事務局から報告事項について説明があります。

高等学校グランドデザイン会議におけるこれまでの検討状況（中間まとめ）に係る概要説明

事務局

お手元の中間まとめは、各専門委員会、各地区部会の意見を踏まえて検討会議がまとめたもので、平成19年4月23日に教育長へ報告をしております。この中間まとめについては、現在、県教育委員会のホームページに掲載し、県民の皆さんから意見を伺っているところです。また、県中学校長会、県高校長協会にも意見をいただいている所です。

この中間まとめの位置付けは、あくまでも各専門委員会、各地区部会の検討を踏まえ、検討会議が現時点までの検討状況をまとめたものです。次回の地区部会は8月開催を予定しており、最終報告案に対し、意見をいただく予定です。

中間まとめの9ページの部分ですが、(ア)(イ)(ウ)の他に、水産、家庭、看護という専門学科がありますが、特に意見もなく検討されませんでした。そこで、事務局から検討の参考となる資料を県高校長協会にお願いし、提出いただいた資料が、お手元の参考資料「職業教育を主とする学科（水産、家庭、看護）」です。この資料については、専門委員会に配り検討いただいております。本日の検討にも関わる資料という事で、主な部分を事務局から説明します。

【事務局から、参考資料に基づき説明】

司会

それでは次第によりまして、意見交換に入りたいと思います。ここからは加福部会長に進行をお願いします。

協議事項

加福部会長

今回は中間まとめについて一通り確認して行きますので、言い残した事や付け加えたい事がありましたらお願いします。また、事務局から説明があった水産、家庭、看護に関する学科について、何か意見があれば、私から検討会議に意見としてお伝えします。

「1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方」の、「(1) 1学年当たりの適正な学級数」について、これは特に問題ないと思いますがいかがでしょうか。

次に、職業学科、総合学科についてはいかがでしょうか。

事務局

この部分について、事務局から中学校関係の方々に伺いたい事があります。「イ 普通科等、職業学科、総合学科の募集割合」の2行目の「中学生及び保護者には普通科への志向が強くあることから」というフレーズですが、この部分はバックデータとして具体的な数字やアンケートはとっていないのですが、会議の中でこの話がよく出て来る事から、検討会議では一般的な認識として掲載していますが、第2専門委員会の委員から、データの無い中で本当にそういう状況にあるのかという質問がありました。そこで私共から、中学校長会にもお伺いしているところですが、皆さんからも、これまでの経験や認識という事になるとは思いますが、お話いただければと思います。

加福部会長

はっきりとした数を示せば良かったのですが、我々の所でも職業学科に来た生徒の中には、本当はここに来たくはなかったという声がありました。しかし、実際にその数がどれくらいあるのかという事は我々も把握していません。

石川副部会長

今の事について、我々の地区の校長会にも意見を求められています。私が地区の代表になっており、手元に地区の意見の資料があります。かなりの数があり、意見は多岐に渡っていますが、多い意見としては、必ずしもそうとは言えないという事です。ちなみに私の学校の事を考えると、入試制度と関係しているのかも知れませんが、専門高校の倍率も高く、決して普通科という流れではないというのが一般的な声です。また、今言われたように、きちんとしたデータに裏付けられていない記述は疑問だという声があり、説得力が弱い気がします。

A 委員

私もその部分に線を引いていました。思い切って書かれたなと感じています。歴史的に見ると、我々団塊の世代の頃に生徒がどんどん増えて高校を作らなければならなくなり、そこでお金のかからない普通高校をたくさん作りました。教育学的に見ると、普通高校を作り過ぎたという反省があります。しかし、八戸市では、ここに書いてあるとおりです。

「みんな普通高校に行きたいんだ」というのが3年生担当の声です。先生方からも、普通高校を増やすよう伝えて欲しいと言われて来ました。歴史的な背景やデータと、現状という点では複雑な心境ですが、八戸市の状況としては当たっています。なぜかと言いますと、専門高校に入学しても、今、直接仕事にはつながらないという面があります。専門高校を出た者を企業ではあまり望んでいません。即戦力にはならないという現状があるのだと思います。専門高校で学んだ事が、すぐに就職につながらないという事があります。そういう事で、ここに書かれている事は当たっていると思います。ただし、歴史的な事やデータの考察を付け加える必要があると思います。

加福部会長

データというのはすぐに出るものでしょうか。

事務局

前回、同様の会議を立ち上げた時にアンケート調査をした事があります。平成9年頃ですが、その時は普通科希望が6割くらいでした。専門委員会の中で、いつの段階で調査すべきか非常に難しいという意見がありました。現在、中学3年生では、2回進路志望調査をしています。3年生ですとある程度自分の実力や希望、また様々な指導があって決まるとは思いますが、2年生、1年生と受験から離れてしまうと、進路意識が全く無い状態となり、学科自体の理解も出来ていないという事もあります。そういう事もありますので、データを集める難しさもあると思っています。「普通科への志向があることから」というように直結した形になっていますので、この表現はどうかという意見をいただいております。検討を重ねている状況です。

加福部会長

企業でも専門高校にあまり期待していないのでしょうか。前に、水産高校で学んだ専門的な事は、現場ではあまり必要無いという意見がありました。

B 委員

今すぐ現場で要求している事ではありません。

加福部会長

他の企業ではどうでしょうか。

B 委員

学校で学んだ技能をあてにしている、という事は無いと思います。

加福部会長

そういう事から、普通高校で基礎・基本を勉強させた方が良いのではないかというのが、この地区の意見でした。

A 委員

あるいは、山形県だったと思いますが、高校が企業と直結してデータ交換しながら育てて行く、それが良いかどうかは別として、そういう事があります。

B 委員

色々な技術の資格が実際に必要な部分もあると思います。看護などは典型だと思います。私の業界ですと水産高校になりますが、資料のとおり本人は希望して水産高校を受験してはいますが、水産の仕事に就きたくて受験している訳ではないと思います。

C 委員

専門委員会で、「強く」という表現が、何を根拠にという事が問題になりました。しかし、人生は長いので普通高校で学んで、それから専門分野に進んでも良いのではないかという意見もありました。学力を付けて、職業に進んでも良いのではないかという事です。

D 委員

うちの高校の場合は、是非普通科に入りたいとか、専門学科に入りたいという事は、特別無いようです。普通科と商業科のどちらに入れば就職に有利ですかという事は聞かれますが、とりあえずは普通科という目で見ているのではないかと思います。

加福部会長

それでは、この部分については、検討会議に対し表現が強過ぎるのではないかという程度でよろしいでしょうか。

A 委員

団塊の世代で生徒が増え高校を作らなければならなくなり、そこでお金のかからない普通科をたくさん作りました。しかし、今、話し合っているのはそういう普通高校ではありません。将来にわたって学び続けるという、豊かな教育ができる学校の話をして行かなければなりません。

加福部会長

そういう事で、表現の仕方を工夫してまとめてもらう事を上北・三八地区の意見としてお伝えします。

それでは、「(3) 適正な学校規模を実現するための方策」についてですが、特に「三市の普通高校を含めた統廃合もやむをえない。」という事です。検討会議でも話し合い、三市の中でも統廃合が必要だという事です。

A 委員

「地域のコミュニティーに支えられ」とは、具体的にどういう支えられ方を想定してい

るのでしょうか。私は、それでは地域はどのようにすれば良いのかという事を考えます。

事務局

この部分は、議長から提案があった表現です。私もしっかりと理解できていないかもしれませんが、地域密着型と言いますか、地域と非常に関わりの深い学校、地域に根付いた学校という事です。例えば、地域の伝統行事に学校が参加しているとか、また逆に街の方々が学校に出向いて勉強会や学校開放などの活動に参加しているとか、学校と地域が一体的となった活動が行われているというイメージだと思います。

加福部会長

郡部に多い学校ですね。郡部の小さい所では、我が町の学校、我が村の学校という言い方をします。

A 委員

ある意味では理想的ですね。

D 委員

うちの高校などは、町に支えられ、地域に支えられた学校です。

加福部会長

ここの部分はよろしいですね。それでは、地区毎の学校配置についても色々な話がありました。ここで話し合われたのは、どうしても高校に通学が困難だという所が出た場合には考えましょうという事です。

「(4)校舎制の今後の方向性」についても、これで良いのではないかと思います。一定基準という部分について、はっきりとした基準を出していませんので、それはどうなのかと感じています。「考慮する」と言いながら、統廃合の基準を設けるのは旨くないのかも知れませんが、最終的には一定の基準を設けないと地区の方々は納得しないのではないかと思います。

事務局

この部分は、専門委員会でもかなりの時間をかけて協議しました。しかし、数値的な話になると、この会議でそこまで説明責任を果たすべきかという話や、一つの方向性について、色々な方から意見をいただき、十分な説明をした上で進めて行く事が必要ではないかという話がありました。中身の書かれ方としては、一定の基準を設けるという方向性、そして、基準を公表して進めるという段階で留めています。

加福部会長

グランドデザイン会議の意見としては、そこまではいらぬという事ですね。

事務局

その先は、行政側の役割という事です。

加福部会長

次に「(5) 定時制の今後の方向性」についてです。この地区は、三沢市と八戸市で賄うので、是非三沢高校は残して欲しいという意見を上げています。したがって、この地区では上北地区1校、三八地区1校という事で考えています。

A 委員

私は、中学の子ども達を見ていて、定時制の専門高校というのは大事だと思います。全日制に行けず、工業高校の定時制の選択を決めた子どもを何人も見て来ましたので、そのように感じています。全体的な動きを考えるとやむをえない事だとは思いますが、少ないからニーズが無いという事でもないと思います。

例えば、生涯学習的に、あるいはネットワーク的に、あるいは通信大学的に、内容別に各機関で学び、単位を取って卒業するというような、新しい学校を作る考え方がこのグラウンドデザイン会議の中にあっても良いのではないかと思います。

加福部会長

新しいタイプの高校についての項目がありますので、そちらでもう一度意見をいただければと思います。

事務局

この文章からは読み取りづらいとは思いますが、工業という科目やカリキュラムが全て不要という事ではなく、「普通科の選択科目の中で職業に関する科目を学習する」などの方法を考えて行くとあります。具体的にはまだこれからですが、施設・設備が無いと出来ないのなら出かけて行って学んだり、連携する形が考えられるのではないかと思います。そのような事から、専門委員会では、「廃止について」を「廃止も含め」に変更する意見をいただいています。

加福部会長

そういう意味では、先程の意見も生きてくるとは思いますがいかがでしょうか。

事務局

そうですね。

A 委員

事務局への質問です。こういう取組は、役所の部署では生涯学習課が得意とする所ですが、そういう話し合いはあるのでしょうか。

事務局

現在、検討いただいている会議は、検討会議、専門委員会、地区部会と3つあります。これとは別に、庁内でもいただいた意見を踏まえた検討が必要という事で、庁内の委員会を立ち上げる予定です。そこには、県立学校課、学校施設課、義務教育課、教育政策課、生涯学習課、スポーツ健康課にも入っていただいて、先程お話いただいたような連携の在り方、地域と学校の在り方についても検討する準備があります。

加福部会長

学校を無くするにしても、作るにしてもお金のかかる事ですし、我々の会議だけでは進まないという事です。

D 委員

是非伝えていただきたい事があります。多様な生徒に対応した学校として、定時制の昼間部の役目は大きいと思いますので、その充実をお願いします。どうしても全日制では対応できないケースもあると思いますので、よろしくをお願いします。

加福部会長

了解しました。お伝えします。

それでは、「2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方」の「(1) 学科・コース等の検討」に進みます。

普通科等についてですが、普通科でも職業観・勤労観が大切だという記述があります。やはり、職業意識が低下しているという事なのでしょう。働く事の大事さを教える事について書かれています。この辺について、皆さんから何かありますか。

D 委員

中学校の方々にお伺いしたいのですが、15歳で将来の事を考えろと言っても非常に厳しい面があると思いますが、中学校におけるガイダンスが非常に大事になって来ると思います。先程の話でありましたが、計画的に2年生、3年生とやられているとは思いますが、記載されているように目的意識が希薄なまま入学するとか、とりあえず普通科に入学しようという事もあります。中学校の指導も大変だとは思いますが、この辺のお話をお伺いしたいと思います。

石川副部会長

今話された事についても、中学校長会からも意見を求められています。この記述の部分については、地区の中学校側としては過敏に反応しています。中学校の進路指導に矛先が向けられた感じがします。逆に言えば1年生から頑張っているつもりだという事です。1年生から進路希望を取ると、半分以上は三本木高校に行きたいという感じかもしれません。三本木高校に憧れているようです。しかし、3年生になれば、先程言ったように多岐に渡って来ます。自分の適性が分かったり、色々な進路意識が開発されて来て、自分

の進路に合った学校を目指して行きます。したがって、この表現を斜に構えて見れば、よく分からないで入学していると言われるが、そうなのでしょう。中にはそういう生徒もいるかもしれませんが、学校を事前に見学に行き、理解した上で入学していると思いますし、それほど悪い状況ではないと思います。地区の先生方からも、どちらかと言うとそういう意見が多くありました。また、私の学校では、総合学習の中で職業に関する学習を積んでいます。

A 委員

中学校長会の意見を聞く場があると思いますが、この部分についてはどこの中学校長会からも、これは何だという意見が出ると思います。まず中学生の進路という点では、毎日揺れ動いています。あなたはどこの学校を受けるのですかと聞くと、「水産高校を受けません」と言うが、3日くらいすると「私、心理学に興味があるのですが」と言われます。受験票をもらった段階でも、揺れ動いています。ですから、中学校の段階は揺れ動く存在なのだという認識に立っていただきたいと思います。そして、揺れ動く段階の生徒を、小学校、中学校、高等学校を含めて育てて行く訳です。そういう意味で、書き方として中高がもっと交流し、進路意識を育てて行かなければいけない、という書き方にしていきたいと思います。

加福部会長

事務局いかがですか。

事務局

この部分は、この地区では理数科と英語科の話だと思います。職業に関する専門学科について高校の先生方から言われているのは、高校側も学科について旨く説明しきれていないなど問題があるという事です。前段の方は、確かにお話いただいたような印象を受ける視点になっていますので、意見をお伝えします。

加福部会長

いただいた意見はそのままお伝えします。高校側から何か意見はありますか。

D 委員

石川副部会長の意見にありましたように、学ぶ過程の中で進路を考えるのが良いのではないかと考えています。

中学校は中学校で最善を尽くして行くでしょうし、高校は高校で完成されたものとして見ていないので、その辺の事を旨く伝える事ができれば良いのではないかとと思います。

一人の人間として最低限必要なマナーや、社会性の育成を高めて行き、その中で進路を考えて行くというのが大切な部分ではないかと考えています。

加福部会長

職業学科については、何かありますか。職業学科についても進学指導が大切だと書かれていますので、これで良いと思います。

総合学科についてはいかがですか。

石川副部長

「理解しにくい」と書かれていますが、私共の地域では、中学校の生徒も高校に行きま
すし、お願いすれば高校側からも説明会に来てくれます。そういう事で、お互いに努力を
しているので良いのではないのでしょうか。そういう事を確認し合えば良いと思います。

加福部長

今は、普通高校でもキャリアガイダンスを必死になってやっていますが、その結果がな
かなか出なかったり、旨く行ったりという学校があります。

総合学科に関しては、特に問題が無いという事でよろしいでしょうか。

「(2) これまで設置した学科・コースの今後の在り方」について、何かありますか。

石川副部長

職業学科が細分化されて来たものを、基礎・基本を重視し学科再編を行い、もっと大き
な括りにした方が良いのではないかという意見です。その辺は、その後の括り募集につな
がって行くかもしれません。入り口から細分化すると、その道しか無いというように狭め
てしまう事への意見がありました。

D 委員

インターンシップが書かれていますが、非常に重要な事だと思います。本校では1年生
全員で実施し、インターンシップ実施記録というものにまとめています。就業日誌などを
書いてもらい、まとめさせて行くのも大切ですし、いい経験になると思います。

石川副部長

ここの表現で気になったのは、項目によって段落構造が違う事です。こういう文を書く
時の構文は、文学的な表現よりはA + B + Cのような表現の方が品格が出ると思いますの
で検討してください。

加福部長

それでは、ここで一旦休憩します。

~~~~~  
休 憩  
~~~~~

加福部長

総合学科と、「(3) 普通科における全日制単位制の在り方」についていかがでしょうか。

現在、青森市、八戸市に各1校導入しており、さらに平成20年度に弘前市に新たに導入する事としているとあります。単位制についてはこれで良いと思います。

それでは、「(4)新しい学科・コース等の設置の必要性」についていかがでしょうか。この辺について、地域産業という点からいかがでしょうか。

B 委員

商工会議所でも、地元経済を支える人材としての高校生という意識になって来ています。これまで、経済団体という事から、あまり身近に考えていなかった教育についても議論されるようになっていて、学校現場に対する関心が強くなって来ていますので、理解しながら提言をして行きたいと考えています。主に職業に関係する専門学科が中心になると思いますが、会社側が見学に訪れています。産業界からも教育への関心が大分強くなって来ているという状況です。

加福部会長

景気が良くなってくれば、生徒をもっとたくさん採用してもらえないかと考えます。学校に興味を持っていただければと思います。

B 委員

まだ、地元の採用は今ひとつですが、中央の方から採用が増えて来ているという事です。団塊の方々の定年の延長などもあり、まだ求人はそれほど増えていませんが、企業を支えるために求人が必要だという事は目に見えており、状況は変わって行くと思います。

E 委員

流れとしては言うとおりでと思います。会社としては、即戦力として必要としているのではなく、礼儀やルール、マナーをしっかりと守れる生徒を求めているというのがほとんどだと思います。そういう意味で、ここの項目に直接関わる意見という事ではありませんが、食育などは新しい良い取り組みだと思います。

加福部会長

「(5)統廃合による新しいタイプの高校の可能性」についてです。ここの所は、示されている内容で良いと思いますがいかがでしょうか。三八地区の南部工業高校と八戸工業高校を一緒にする、三戸高校の商業科を八戸商業高校と一緒にするという統合の仕方だと思います。しかし、南部工業高校へは八戸市から多くの生徒が通っているという事ですが、南部工業高校のあれだけの設備をどうするのかを考えなければならないと思います。ただ単に生徒が少なくなるからという訳には行かないだろうと思います。

次は「(6)専門学科の募集方法」です。「学科の特性を十分に理解しないまま入学するなど」という表現はいかがでしょうか。

A 委員

学科の特性を理解できない存在なのです。いくら説明をしたとしても、中学生の発達段階ではできない存在だという事です。非常に気になる表現です。

D 委員

(5)と(6)は非常に興味を持って読ませていただきました。統合によって色々な学科が考えられ、そこで括り募集をし、高校1年生の段階でガイダンスを充実させ、自分の進みたい分野を選ぶというのは非常に良いと感じます。

加福部会長

実際に1年生でガイダンスを行うとなると、2年生、3年生でかなり専門をやらなくてはいけなくなり、授業が大変ではないかと思いますがいかがでしょうか。

A 委員

八工大一高でも括り募集をしています。

D 委員

例えば中高一貫であれば、時間的にスムーズにできると思います。色々な意味で、進路に時間をかけて選択しながら取り組んで行けると思います。

加福部会長

中学校では、特色や地域性を考えながら取り組んでいます。中高一貫となれば、それぞれの中学校の特色を無くしてしまいます。例えば、高校からすると、どこの中学校から来た生徒か良く分かるという事があります。ある中学校から来た生徒は、返事や挨拶もきちんとしている、そういった特色が無くなってしまわないでしょうか。親達もその中学校を応援し、だから我々も学校あげて応援しようという事になります。私はそういう事で、中高一貫は中学校の特色が無くなるのではないかと考えています。

括り募集については、考えてもらう必要がありますので、このままで良いと思います。

次に「3 県立高等学校と中学校や大学等との連携の在り方」の「(1)中高一貫教育を含めた中学校と高等学校との連携の在り方」についてです。市内の中学校、高校との連携というのはありますか。

A 委員

関係教育委員会と県が評価と検討を行い、今後の方向性を検討するという事でよろしいと思います。

石川副部会長

併設型中高一貫が三本木高校で始まり3ヶ月が経ちましたが、特にデータというものは何もありません。私の中学校が一番近くにあり、本来、私の中学校に入る生徒も入学していると思います。あくまで私個人の意見ですが、中高一貫教育が何を指すのかははっきり

させるべきと思っています。例えば、エリートを作ると割り切っているのであれば三本木高校は素晴らしいと思います。しかし、もしそういう事であれば、少なくとも私共のような近隣の学校の犠牲の上に成り立っていると思います。少なくとも学力的にも、リーダー性的にも、上位に違いないと思われる生徒がまとめて行ってしまう事は大きなデメリットがあります。私は、中高一貫によって6年間のスパンで教育する事については興味・関心があります。どこに附属を設置するのか、つまり、それは何を指すのかという事です。私達の地域で三本木高校に作れば、当然、勉強で鍛え抜かれ無試験で三本木高校に入学できるという魅力があります。私は、本来5段階で3くらいの子供が6年間のスパンで中高一貫教育を行う事により、4～5になったりするような、長いスパンでじっくり育てる事が良いのであって、エリート育成の狙いによる設置は考えてもらいたいと思っています。また、この部分について、中学校長会からいくつかの意見があります。何のために勉強するのか。その地域に合わせて進める必要がある。中高一貫よりも小中一貫の方が必要性を感じず。他県の状況など十分吟味して慎重に進めてもらいたい。このような意見が出ています。

C 委員

専門委員会において、むつ市教育長から、中高一貫は元に戻したいという発言がありました。私は教育現場が分からないものですから、驚きました。

加福部会長

むつ市の場合は、中高一貫で入学する生徒が少ないという事です。田子高校は、ある程度の人数はいるようです。以前この場で話された事ですが、町で全て同じ高校に送り出していいのかという事です。他の学校に行きたい、学区制が無いのにそれでいいのかという意見を伝えました。連携をやってでも生徒数が少なくなり、教員の行き来ができないのであれば意味がありません。連携型については、いずれ結論が出ると思います。新聞にも出ていましたが、大湊高校への入学者数が少ない事から考える必要があるという事です。連携の在り方については、概ねここに書いてあるとおりで良いと思います。

「(2) 高等学校と大学等との連携の在り方」です。大学では、各学校に出向いて様々な事を行っています。

D 委員

今、県内の大学にお願いすれば、出前授業など快く引き受けてくれます。

加福部会長

大学の聴講などはどうなっていますか。

事務局

大学、高等専門学校等における学習の単位認定という事ですが、一般的には高大連携という言い方をしています。一つは大学に行って聴講する、もう一つは大学側が高校に出向

いて勉強会や学校紹介を行うという事があります。公立では弘前高校、弘前南高校、弘前中央高校が弘前大学の聴講を行い、単位に位置付けています。また、大学が出向くのは、28～29校において大学の紹介等を含め行われていると記憶しています。ここ数年では、微増ですが増加傾向にあります。

石川副部長

高大連携と小中連携とは全く違うものだと思いますが、連携そのものは悪い事ではないので、連携で何をしたいのかという事が大事だと思います。

D 委員

この場合、高校を卒業する時に高校の単位となるのか、あるいは大学に進学した際に大学の単位になるのでしょうか。

事務局

総合的な学習の時間か学校設定科目の単位という事になります。

加福部長

よろしいでしょうか。それでは、最後に「(3) その他の連携・協力の推進」です。いかがでしょうか。

A 委員

7ページの「職業人・社会人として必要な基本的・基礎的な資質の育成」という部分です。先日、市内の高校のバス停を見ていたのですが、高齢の方々が数名バスを待っていましたが、バスが到着した際、高校生が高齢の方を押し退けて乗ろうとしていました。職業観・勤労観の育成、また人間としての基礎・基本が欠けています。

しかし、高等学校だけで育てる事ができるのでしょうか。人間としての基礎・基本を高等学校だけで育てる事は無理だと思います。やはり学校・家庭・地域が一体となって行かなければならないと思います。実際の状況としては、小学校はある程度地域と一体となっています。中学校は、経営者が努力しないと部活動で困ってしまいます。高等学校に至っては、地域との連携という事について全く実績がありません。21世紀の青森県の高等学校のデザインを考えようというのであれば、この事に関する骨太の設計が必要だと思います。小学校、中学校、高等学校が自分の学校の教育を考える時に、地域を含めた枠を持って進めて行く必要があると思います。今後、地域と高等学校の連携という考え方を膨らませて欲しいと思います。また、得意とするのは生涯学習課だと思いますので、そういう考えを取り入れて欲しいと思います。

加福部長

そういう事では、石川副部長から高等学校は何をやっているのか、生徒指導がなっていないという意見がありました。私が、生徒指導担当だったという事もあり、高校だけで

育てる事は出来ないというお話をしました。子ども同士でも「そういう事をするな」と言える人間を育てなければなりません。高校に来て、「スカートが短くておかしいよ」と言える人間もいなければなりません。しかし、みんなと一緒にないと苛められるという弱い部分も抱えている訳です。地域の大人として、高校生に言える大人になっていないといけません。先程のバスの件でも、高校生だけがそうなのか、高校生になるとそうなるのかという事は、とても大事な事だと思います。

A 委員

地域の方々に言わせると、中学校に働き掛けても反応してくれないのです。高校に言っても考えてくれない、という事が結構あります。そこで、中学校を含めて高等学校をどうデザインすればいいのかという事です。そういう意味では、中間まとめを見た限りその点が弱いと思います。

加福部会長

これまで話された意見については、お伝えします。また、統廃合だけでなく人間としての基礎・基本を身に付けさせる事が企業から求められているという事でよろしいでしょうか。

D 委員

子どもだけが悪いという事は言えないと思います。大人にも相当な問題があると思います。これまで小中高の連携という事で進めて来ましたが、これからは保護者を巻き込む活動、地域を巻き込む活動が是非必要だと思います。

B 委員

高等学校グランドデザイン会議は公立高校の事だけに触れていますが、私立高校を考える要素はあるのですか。

加福委員長

検討会議には、私立の先生も入り意見をいただいています。私立を含めた話はしていますが、学校を作る、無くすという事は公立についてだけの話となります。

E 委員

新聞では、高等学校グランドデザイン会議について、あまり肯定的な記事が見られませんが、できれば皆さんに理解いただけるPRの仕方に努めていただきたいと思います。

加福委員長

それでは、以上で終わります。